

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-1	幼稚園就園運営支援事業	担当課	学校教育課
			作成者	山崎 高弘
施策体系	行政分野	①健康・福祉	施策分類	2児童・青少年
	総合計画上の施策名	6	幼児教育の充実	
	施策名(評価単位)	(31)	ふるさと教育、学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	家庭の所得状況に応じて保護者の経済的負担の軽減を図る。 私立幼稚園の経費の負担を軽減し、幼児教育の振興及び充実を図る。
------------	--

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容(平成25年度)	私立幼稚園に就園している美濃市在住の満3歳～5歳児保護者の経済的負担を軽減し、幼稚園教育の振興を図るため入園料及び保育料の一部を補助しています。補助対象は、該当園児がいる世帯で平成25年度市民税所得割課税額の合計が211,200円以下の世帯に限ります。補助金額は、62,200円～308,000円（文部科学省の補助金も含む）。申請受付及び支払いは、在園幼稚園を通じて配布しました。また広報等に掲載し私立幼稚園就園奨励費補助事業の周知を図りました。 広報掲載日 6月1日・11月15日 申請数 1回目98名、2回目12名 支払い決定者110名 美濃市内にある私立幼稚園1園に経費の負担の軽減を図るため658,000円の補助をしています。

(2) 事務事業実施にかかるコスト (単位:円)					
区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込	
① 直接事業費	11,247,150	12,067,600	12,359,100	15,925,000	
② 人件費	800,000	800,000	800,000	800,000	
③ 合計コスト ①+②	12,047,150	12,867,600	13,159,100	16,725,000	
前年度比 (%)		106.8%	102.3%	127.1%	
財源内訳	国・県支出金	2,606,000	2,695,000	3,030,000	5,308,000
	市債				
	その他特定財源				
	一般財源	9,441,150	10,172,600	10,129,100	11,417,000
④ 活動一単位当たりコスト	6,023,575.0	6,433,800.0	6,579,550.0	8,362,500.0	
前年度比 (%)		106.8%	102.3%	127.1%	
⑤ コストに関する増減理由 (25年度実績、26年度見込)	年々、国庫補助限度額が改正され増額されているため、交付人数減でも増額になっている。				

(3) 活動指標	指標名	幼稚園就園奨励費補助保護者申請受付数				単位:	回
	指標説明						
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
	実績値	2	2	2	2		

(4) 成果指標	指標名	補助金交付児童数				単位:	人	評価:	+
	指標説明								
	目標値の設定方針	補助金交付対象児童数							
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込				
	目標値	107	109	110	120				
	実績値	107	109	110					
達成度 (%)	100.0%	100.0%	100.0%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
美濃市の幼稚園就園奨励費は、国の基準で支払っており、保護者の経済的負担を軽減している。近年基準額が値上がり市の負担額が増加する傾向にあります。	

6. 具体的な改善内容	改善時期	平成26年5月
私立幼稚園（他市町村含む）に本年度転出・転入及び異動予定児童を把握し、来年度の入園料・保育料・入園予定児童数等状況確認します。		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	中島 玲子
年々幼稚園就園奨励費の補助額を国の基準に合わせ増加させている。コスト面では、極力印刷物等無駄を省くことを進めています。		

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	-----------------------------

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-2	少人数指導等教育推進事業	担当課	学校教育課
			作成者	岩見 浩二
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	43	基礎学力と基礎体力の向上	
	施策名(評価単位)	(31)	ふるさと教育、学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	円滑な学校運営を目指し、児童生徒の学力の向上を図る。
------------	----------------------------

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容(平成25年度)	<p>○複数指導者による授業を実施するため、非常勤講師を配置</p> <p><配置基準></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小1～3年 31人以上の学級に配置 ・小4～6年 36人以上の学級に配置 ・中1～3年 36人以上の学級に配置（※30人以上の学級が学年3クラス以上の場合は1名配置）

(2) 事務事業実施にかかるコスト (単位:円)				
区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込
① 直接事業費	44,646,598	40,303,000	40,012,992	40,287,000
② 人件費	320,000	320,000	320,000	320,000
③ 合計コスト ①+②	44,966,598	40,623,000	40,332,992	40,607,000
前年度比 (%)		90.3%	99.3%	100.7%
財源内訳	国・県支出金			
	市債			
	その他特定財源			
	一般財源	44,966,598	40,623,000	40,332,992
④ 活動一単位当たりコスト	1,550,572.3	1,400,793.1	1,390,792.8	1,400,241.4
前年度比 (%)		90.3%	99.3%	100.7%
⑤ コストに関する増減理由 (25年度実績、26年度見込)	24年度中学校再編成により美濃北中と美濃中を統合したことにより、25年度新生美濃中に対して非常勤講師を手厚く配置(+4名)し、その体制を継続したため。			

(3) 活動指標	指標名	非常勤講師の週当たりの教育活動時間				単位:	時間
	指標説明	事業の意義やねらいの理解を深めるための参加説明会の実施					
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
	実績値	29	29	29	29		

(4) 成果指標	指標名	少人数指導非常勤講師配置人数				単位:	人	評価:	+
	指標説明								
	目標値の設定方針	配置規定により算出							
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込				
	目標値	26	17	14	12				
	実績値	12	9	9					
達成度 (%)	46.2%	52.9%	64.3%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導非常勤講師を配置することで、基礎基本の定着のための授業実践を行うことができました。 ・できるだけ多くの非常勤講師を配置し、少人数指導（TT指導）の授業時間数を増加することが必要です。 	

6. 具体的な改善内容	改善時期	平成26年4月～27年3月
<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師研修会において、非常勤講師の資質向上を目指します。 ・予算要求において、その必要性を示し、非常勤講師の配置数の増加を目指します。 		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	中島 玲子
<ul style="list-style-type: none"> ・教育効果を高めるために、非常勤講師が配置されて、分からない子どもに寄り添った指導がなされています。 今後は、非常勤講師の指導力の向上とその配置人員の増加を図っていきます。 		
今後の方向性	1. 継続 (1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)	

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-3	国際交流（海外青年招致）事業	担当課	学校教育課
			作成者	岩見 浩二
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	43	基礎学力と基礎体力の向上	
	施策名（評価単位）	(31)	ふるさと教育、学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	ネイティブスピーカーであるALTを中学校に配置し授業を行うことで、中学校の英語授業の内容を高める。
------------	---

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（平成25年度）	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校2校へのALTの巡回配置 ・英語教師とALTによるTT指導を仕組み、英語の授業の充実を図る。 ・ネイティブスピーカーの英語に触れることで、より正確な発音を学ばせる。 ・外国人とのコミュニケーションに意欲的に取り組ませる。

(2) 事務事業実施にかかるコスト (単位:円)				
区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込
① 直接事業費	4,980,000	4,466,058	4,820,846	5,076,000
② 人件費	400,000	400,000	400,000	400,000
③ 合計コスト ①+②	5,380,000	4,866,058	5,220,846	5,476,000
前年度比 (%)		90.4%	107.3%	104.9%
財源内訳	国・県支出金			
	市債			
	その他特定財源			
	一般財源	5,380,000	4,866,058	5,220,846
④ 活動一単位当たりコスト	153,714.3	139,030.2	149,167.0	156,457.1
前年度比 (%)		90.4%	107.3%	104.9%
⑤ コストに関する増減理由 (25年度実績、26年度見込)	・平成25年度は7月で契約が切れ、新たに海外からALTを招致したため、その渡航費や研修費がかかった。平成26年度にかけては継続になったので、その分の経費が削減できる見込みです。			

(3) 活動指標	指標名	ALTとの打合せ				単位:	回
	指標説明	ALTとの週1回の打合せを実施					
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
	実績値	35	35	35	35		

(4) 成果指標	指標名	ALT活用授業の時数				単位:	時間	評価:	+
	指標説明	一クラス当たりの全授業のうち、ALTを活用して行った授業の時数							
	目標値の設定方針	全授業の1/3							
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込				
	目標値	35	35	35	35				
	実績値	36	36	36					
達成度 (%)	102.9%	102.9%	102.9%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ALTは、積極的に生徒とコミュニケーションをとっていることから、TTの授業においても生徒への指導が決め細やかにできている。よって、授業の質の高まりにつながっています。 ・ALT自身の性格によって、その活用のあり方に影響がでる。コミュニケーションを得意とするALTの招致ができるように情報収集する必要があります。 	

6. 具体的な改善内容	改善時期	平成26年5月・10月
<ul style="list-style-type: none"> ・ALTに目的意識を持たせ、またもっている力を十分に発揮してもらうために、勤務評価の実施をし、それを基に本人と懇談して意欲化を図っていきます。 		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性		所属長氏名	中島 玲子
<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとのTT授業を行うことで、ネイティブな英語に触れ、また外国人とのコミュニケーションを学ぶことができ、授業の質の向上につながっています。今後も意欲的にコミュニケーションを行うALTを確保していくことが重要です。 			
今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)	

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要					
事務事業名	52-4 小中学校教員補助員設置事業			担当課	学校教育課
				作成者	岩見 浩二
施策体系	行政分野	④教育・文化		施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	43	基礎学力と基礎体力の向上		
	施策名(評価単位)	(31)	ふるさと教育、学校教育の充実		

2. 事務事業の目的	学習不適應や生活支援を必要とする児童・生徒に向け、特別支援員の活用状況を向上させる。
------------	--

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容(平成25年度)	○特別支援を必要とする児童生徒の在籍学校へ特別支援員を配置 ・学校において、配置された特別支援員の効果的な活用を行う。

(2) 事務事業実施にかかるコスト (単位:円)				
区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込
① 直接事業費	11,736,000	11,576,532	12,858,104	15,648,000
② 人件費	320,000	320,000	320,000	320,000
③ 合計コスト ①+②	12,056,000	11,896,532	13,178,104	15,968,000
前年度比 (%)		98.7%	110.8%	121.2%
財源内訳	国・県支出金			
	市債			
	その他特定財源			
	一般財源	12,056,000	11,896,532	13,178,104
④ 活動一単位当たりコスト	482,240.0	475,861.3	527,124.2	638,720.0
前年度比 (%)		98.7%	110.8%	121.2%
⑤ コストに関する増減理由 (25年度実績、26年度見込)	平成26年度：補助員への研修を行うべく指導業務の増加による人件費の増額			

(3) 活動指標	指標名	特別支援員支援時間数				単位:	時間
	指標説明	週当たりの特別支援員の支援時間数					
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
	実績値	25	25	25	25		

(4) 成果指標	指標名	特別支援員配置人数				単位:	人	評価:	+
	指標説明	学校に配置する支援員の人数							
	目標値の設定方針	学校における要支援児童生徒の実態に応じた配置をする。							
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込				
	目標値	9	10	10	10				
	実績値	8	9	9					
達成度 (%)	88.9%	90.0%	90.0%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする児童への個別支援により、学習に向かう姿勢を身に付けさせることができ、基礎的、基本的な力の定着が図れています。 市就学指導委員会の判定をもとに、特別支援員の配置計画を立てるが、支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあり、その増員が望まれます。 	

6. 具体的な改善内容	改善時期	平成26年4月～27年3月
<ul style="list-style-type: none"> 市就学指導委員会の判定を受けて、最も効果的な配置計画を立案します。 研修会を位置付け、支援員としての資質の向上を図り、より効果を上げていきます。 		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	中島 玲子
<ul style="list-style-type: none"> 市就学指導委員会の判定を受けて、もっとも効果的な配置計画を立案します。 研修会を位置づけ、補助員としての資質の向上を図り、より効果を上げていきます。 		
今後の方向性	1. 継続 (1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)	

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-5	和紙教育振興事業	担当課	学校教育課
			作成者	芝田 純也
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	45	ふるさと（人と郷土を大切に）教育の推進	
	施策名（評価単位）	(31)	ふるさと教育、学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	美濃市の伝統文化である美濃和紙づくりを体験させることで、児童生徒の美濃市への興味関心を高めるとともに、伝統ある美濃市を誇りに思う気持ちを育む。
------------	---

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（平成25年度）	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校4年生の紙漉き体験 ○小学校6年生、中学校3年生の卒業証書の紙漉き ○牧谷小学校における「和紙の里学校」としての和紙教育課程の推進

(2) 事務事業実施にかかるコスト (単位:円)				
区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込
① 直接事業費	512,000	472,750	337,000	353,000
② 人件費	160,000	160,000	160,000	160,000
③ 合計コスト ①+②	672,000	632,750	497,000	513,000
前年度比 (%)		94.2%	78.5%	103.2%
財源内訳	国・県支出金			
	市債			
	その他特定財源			
	一般財源	672,000	632,750	497,000
④ 活動一単位当たりコスト	672,000.0	632,750.0	497,000.0	513,000.0
前年度比 (%)		94.2%	78.5%	103.2%
⑤ コストに関する増減理由 (25年度実績、26年度見込)	平成25年度は各種補助金の見直し等により直接事業費が減ったため。			

(3) 活動指標	指標名	紙漉き体験回数				単位:	回
	指標説明	各校における小学校4、6年生、中学校3年生の紙漉きの回数					
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
	実績値	1	1	1	1		

(4) 成果指標	指標名	紙漉き体験率				単位:	%	評価:	+
	指標説明	小学校4・6年生、中学校3年生の紙漉き体験参加率							
	目標値の設定方針	全員参加							
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込				
	目標値	100	100	100	100				
	実績値	99	99	99					
達成度 (%)	99.0%	99.0%	99.0%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<p>・自分の卒業証書を自分で漉いていることにより、その手にした証書に対する子どもたちの思いは深くなり、それが美濃市の伝統文化への関心につながっています。</p> <p>・平成21年度下牧小学校と上牧小学校を統合し、牧谷小学校としてスタートすると同時に、「和紙の里学校」として和紙教育も推進しました。この教育推進にあたっては、美濃手漉き和紙協同組合、楮生産組合といった地域の協力を得られていることも大きい要因です。</p>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	平成26年5月
<p>・体験できなかった児童生徒は、不登校や病欠によるものである。こうした生徒に対して学校で予定していた日時以外の日に体験できるように働きかけるようにします。</p>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	中島 玲子
<p>・美濃市内小学生が手漉き和紙による卒業証書漉きを行っていることが、他県にも広がってきて、和紙の里会館への申込みも増えてきています。平成23年度末に完成した美濃市社会科副読本には、美濃和紙についても教材化されているので、社会科の授業も充実させ、児童生徒が紙漉き体験を今まで以上に意味あるものと感じられるようにしていきます。</p>		
今後の方向性	1. 継続 (1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)	

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要					
事務事業名	52-6 特色ある学校づくり事業			担当課	学校教育課
				作成者	岩見 浩二
施策体系	行政分野	④教育・文化		施策分類	1 学校教育
	総合計画上の施策名	45	ふるさと（人と郷土を大切に）教育の推進		
	施策名（評価単位）	(31)	ふるさと教育、学校教育の充実		

2. 事務事業の目的	子どもたちに豊かな体験や経験をさせることを目指し、各学校において特色ある教育活動を実践する。
------------	--

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（平成25年度）	<p>○各学校ごとに特色ある教育活動の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材や特色を生かした教育実践をする。 ・子どもたちの感性を引き出す教育実践をする。

(2) 事務事業実施にかかるコスト (単位:円)				
区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込
① 直接事業費	2,558,000	2,418,598	3,817,000	3,817,000
② 人件費	320,000	320,000	320,000	320,000
③ 合計コスト ①+②	2,878,000	2,738,598	4,137,000	4,137,000
前年度比 (%)		95.2%	151.1%	100.0%
財源内訳	国・県支出金			
	市債			
	その他特定財源			
	一般財源	2,878,000	2,738,598	4,137,000
④ 活動一単位当たりコスト	1,439,000.0	1,369,299.0	2,068,500.0	2,068,500.0
前年度比 (%)		95.2%	151.1%	100.0%
⑤ コストに関する増減理由 (25年度実績、26年度見込)	24年度に特色ある学校づくり予算としては減額しているが、25年度より予算の組み替えを行い、「子どもいきいき学校づくり事業」として各種補助金を統合したため増額となり、26年度も継続するため。			

(3) 活動指標	指標名	特色ある教育活動計画の提出				単位:	回
	指標説明						
	実績値	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
		2	2	2	2		

(4) 成果指標	指標名	地域人材・素材を活用学校数		単位:	校	評価:	+
	指標説明	地域人材、素材を活用した特色ある教育活動を実施した学校数					
	目標値の設定方針	全学校で実施					
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
	目標値	8	8	7	7		
	実績値	8	8	7			
達成度 (%)	100.0%	100.0%	100.0%				

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<p>・地域の人材や素材を活用することで、自分の生活している地域のよさを感じ、ふるさとを愛する心を育むことにつながり、子どもの生き生きとして表れています。</p> <p>・各学校の特色が明確となってきている。その特色ある教育活動がさらに充実していくための改善点を明確にするように、次年度の活動計画段階において学校を指導します。</p>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	平成26年11月
<p>・25年度は各種の補助金を統合し、子どもいきいき学校づくり事業としたため、増額となりました。</p> <p>・各校より提出された次年度の活動をチェックし、内容の充実が図られるように学校を指導します。</p>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	中島 玲子
<p>・各学校が地域の人材や素材を生かし、地域の文化を大切に教育活動を推進することで、子どもたちが豊かな体験をすると同時に、ふるさと美濃に対する思いを強くしています。今後も本事業によって、学校並びに校区の誇りとなる特色ある教育の推進を継続します。</p>		
今後の方向性	1. 継続 (1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)	

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-7	士幌町フレンドシップ交流事業補助経費	担当課	学校教育課
			作成者	芝田 純也
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	45 ふるさと（人と郷土を大切に作る）教育の推進		
	施策名（評価単位）	(31) ふるさと教育、学校教育の充実		

2. 事務事業の目的	小学校6年生に豊かな体験活動を経験させることを目指し、事業への参加率を高める。
------------	---

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（平成25年度）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4泊5日の士幌町訪問事業 ・ 約30時間の船での移動（先人の苦労を学ぶ） ・ 士幌町での自然体験 ・ 士幌町でのホームステイ ○ 士幌町訪問団歓迎事業 ・ 士幌町の児童を向け、交流事業やホームステイの受け入れを行う。

(2) 事務事業実施にかかるコスト （単位：円）					
区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込	
① 直接事業費	13,320,000	13,300,000	8,320,000	10,000,000	
② 人件費	1,120,000	1,120,000	1,120,000	1,120,000	
③ 合計コスト ①+②	14,440,000	14,420,000	9,440,000	11,120,000	
前年度比（％）		99.9%	65.5%	117.8%	
財源内訳	国・県支出金				
	市債				
	その他特定財源	6,860,000	7,370,000	7,010,000	5,000,000
	一般財源	7,580,000	7,050,000	2,430,000	6,120,000
④ 活動一単位当たりコスト	14,440,000.0	14,420,000.0	9,440,000.0	11,120,000.0	
前年度比（％）		99.9%	65.5%	117.8%	
⑤ コストに関する増減理由 （25年度実績、26年度見込）	平成24年度までは直接事業費の中に、児童から集める負担金を加えている。平成25年度より負担金は加えないこととし、26年度も継続します。				

(3) 活動指標	指標名	全体参加説明会の実施				単位：	回
	指標説明	事業の意義やねらいの理解を深めるための参加説明会の実施					
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
	実績値	1	1	1	1		

(4) 成果指標	指標名	参加人数		単位：	人	評価：	+
	指標説明	小学校6年生のうち、士幌町訪問事業に参加した児童の数					
	目標値の設定方針	小学校6年生の85%（以上）参加					
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
	目標値	161	165	158	150		
	実績値	124	158	134			
	達成度（％）	77.0%	95.8%	84.8%			

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市全体の6年生児童、保護者を集め、説明会を行ったことで、参加者に目的意識を持たせ、参加の有無について各自の自覚をもって決定させることができました。 ・ 困難なことにもチャレンジするように説明会の中でさらに伝えていくことが必要です。 	

6. 具体的な改善内容	改善時期	平成26年12月
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の目的に、参加児童の研修も盛り込み、自分を高めるための活動であることを重視します。 ・ 説明会や結団式において、本人及び保護者に対して、士幌町での体験活動のすばらしさと、困難なことにもチャレンジすることの大切さ、初めて出会う子と仲間作りをすることの大切さを十分に説明し、参加者と引率者と保護者の方向を一致させるよう努めます。 ・ しおりの構成を、参加児童がつかいやすいように改善します。 ・ 児童の健康面の負担軽減を図ります。 		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	中島 玲子
<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加児童の感想や士幌町での体験の様子から、本事業が子どもたちにとって貴重な経験の場となっていることが分かります。また、美濃市の先人の生き方にふれたり、仲間との交流を持つことによって、自分の生き方を見つめる機会となっており、教育的な効果は高い。よって、児童や引率者の健康、安全に配慮しながら、目的達成のために事業を継続します。 ・ 市全体での参加説明会を継続し、事業の目的の周知や体験のすばらしさをアピールし、参加率の向上を目指します。 		
今後の方向性	1. 継続 （1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合）	

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-8	ほほえみ登校推進事業	担当課	学校教育課
			作成者	岩見 浩二
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	47	児童・生徒・保護者への相談体制強化	
	施策名(評価単位)	(31)	ふるさと教育、学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	学校生活での不適応児童・生徒の学校復帰をめざす。
------------	--------------------------

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容(平成25年度)	1 適応指導教室（子どもたちの心の安定をはかりながら、学校復帰のための支援を行う。 2 教育相談（不登校・いじめ・学習や生活習慣、親子関係等に関する相談活動）

(2) 事務事業実施にかかるコスト (単位:円)				
区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込
① 直接事業費	1,210,216	1,183,266	1,255,239	1,276,000
② 人件費	240,000	240,000	240,000	240,000
③ 合計コスト ①+②	1,450,216	1,423,266	1,495,239	1,516,000
前年度比 (%)		98.1%	105.1%	101.4%
財源内訳	国・県支出金			
	市債			
	その他特定財源			
	一般財源	1,450,216	1,423,266	1,495,239
④ 活動一単位当たりコスト	15,593.7	8,323.2	10,312.0	10,106.7
前年度比 (%)		53.4%	123.9%	98.0%
⑤ コストに関する増減理由 (25年度実績、26年度見込)				

(3) 活動指標	指標名	教育相談件数				単位:	件
	指標説明	児童・生徒、保護者および教職員からの相談件数（面談・電話相談等）					
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
	実績値	93	171	145	150		

(4) 成果指標	指標名	通級回数				単位:	回	評価:	—
	指標説明	ほほえみ教室へ通級した回数							
	目標値の設定方針	不登校生の教室復帰が目的のため、利用が少ないほど成果が上がっているといえます							
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込				
	目標値	0	0	0	0				
	実績値	77	0	123					
達成度 (%)	0.0%	#DIV/0!	0.0%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
・相談が必要と思われる保護者に対して、ほほえみ親の会の活動について保護者への出席率を高めるための広報活動を実施します。 ※ほほえみ登校推進事業は、成果指標の目標値が「0」であることが望ましいことから達成度計算が評価表上、値表示が100%になりません。	

6. 具体的な改善内容	改善時期	26年4月～27年3月
1 心の相談員・養護教諭・学級担任との連携を一層進めます。 2 相談員研修会の充実を図ります。		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	中島 玲子
・相談員研修会や相談室でできる簡単なワークなど相談員がスキルアップをするための学習会、研修会の充実を図り、一人でも多くの児童生徒の学校復帰ができることを目指します。		
今後の方向性	1. 継続 (1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)	

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-9	心の教室相談員設置事業	担当課	学校教育課
			作成者	岩見 浩二
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	47	児童・生徒・保護者への相談体制強化	
	施策名(評価単位)	(31)	ふるさと教育、学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	児童生徒の悩みやストレスの軽減にむけ、学校での相談対応率を向上させる。
------------	-------------------------------------

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容(平成25年度)	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校への心の相談員の配置 ・相談対象者の多い小中学校へ配置し、子どもたちの相談対応を行う。 ・学校職員と連携をとり、教育相談体制の充実を図る。

(2) 事務事業実施にかかるコスト (単位:円)				
区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込
① 直接事業費	3,857,000	2,892,690	2,889,748	2,889,000
② 人件費	240,000	240,000	240,000	240,000
③ 合計コスト ①+②	4,097,000	3,132,690	3,129,748	3,129,000
前年度比 (%)		76.5%	99.9%	100.0%
財源内訳	国・県支出金			
	市債			
	その他特定財源			
	一般財源	4,097,000	3,132,690	3,129,748
④ 活動一単位当たりコスト	1,024,250.0	783,172.5	1,043,249.3	1,043,000.0
前年度比 (%)		76.5%	133.2%	100.0%
⑤ コストに関する増減理由 (25年度実績、26年度見込)	平成24年度は学校再編成による学校数減に伴う配置数減による事業費の減額があり、それにより25年度は活動一単位当たりのコストが増加した。			

(3) 活動指標	指標名	心の相談員配置校数				単位:	校
	指標説明	事業の意義やねらいの理解を深めるための参加説明会の実施					
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
	実績値	4	4	3	3		

(4) 成果指標	指標名	相談活動時間数				単位:	時間	評価:	+
	指標説明	各校における週当たりの相談活動時間							
	目標値の設定方針	毎日4時間の相談活動の実施							
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込				
	目標値	20	20	20	20				
	実績値	20	20	20					
達成度 (%)	100.0%	100.0%	100.0%						

4. 妥当性評価 (「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。)					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業(サービス)との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業(サービス)との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・悩みを抱えた子どもたちが相談員と対話することで心を安定させたり、また、そこでの情報から他の教職員との連携でその子どもを支援する体制を整えたりするなど、効果的な働きができています。 ・不登校傾向の子どもが、相談室で過ごすことにより学級への復帰のきっかけとなっています。 ・24年度4校への配置から25年度3校への配置へと減員となった。各校の実態に合わせ増員を検討します。
----------	---

6. 具体的な改善内容	改善時期	26年4月～27年3月
<ul style="list-style-type: none"> ・各校の相談活動の状況や児童の実態を把握し、次年度の心の相談員の配置について検討します。 		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	中島 玲子
<ul style="list-style-type: none"> ・心の相談員が配置されていることにより、児童生徒への教育相談の充実が図られている。今後も、学校の実態に合わせ、相談員の配置をすることで、児童生徒の心の安定や成長を支えていきます。 		
今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-10	人権教育推進事業	担当課	学校教育課
			作成者	芝田 純也
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	49	人権同和教育の推進	
	施策名(評価単位)	(32)	学校における人権教育の推進	

2. 事務事業の目的	人権への正しい理解と人権意識の高揚を育むために人権教育を推進する。
------------	-----------------------------------

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容(平成25年度)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ぐるみの人権教育の推進及び啓発の推進に関する取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・市人権教育研修会 ・「私のメッセージ展」実施 ・資料集作成 ○人権教育における教職員の指導力向上をめざした実践研究に関する取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・学校人権教育部会 ・学校人権教育研究会 ・人権問題市民啓発講演会 ・美濃市人権教育実践資料集作成

(2) 事務事業実施にかかるコスト (単位:円)				
区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込
① 直接事業費	535,200	535,200	529,200	555,000
② 人件費	320,000	320,000	320,000	320,000
③ 合計コスト ①+②	855,200	855,200	849,200	875,000
前年度比 (%)		100.0%	99.3%	103.0%
財源内訳	国・県支出金			
	市債			
	その他特定財源			
	一般財源	855,200	855,200	849,200
④ 活動一単位当たりコスト	448.2	445.0	505.5	546.9
前年度比 (%)		99.3%	113.6%	108.2%
⑤ コストに関する増減理由 (25年度実績、26年度見込)				

(3) 活動指標	指標名	「私のメッセージ展」への参加者数				単位:	人
	指標説明						
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
	実績値	1,908	1,922	1,680	1,600		

(4) 成果指標	指標名	「私のメッセージ展」への参加作品数				単位:	点	評価:	+
	指標説明	絵はがき、短冊等、園児・児童・生徒・一般によるメッセージ、標語、作文							
	目標値の設定方針	「私のメッセージ展」への参加							
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込				
	目標値	1,500	1,500	1,500	1,400				
	実績値	1,608	1,561	1,370					
達成度 (%)	107.2%	104.1%	91.3%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人権意識、人権感覚の高揚をはかる研修会や講演会を行うことができました。 ・児童生徒、家庭、地域に対して人権に係わる啓発活動を積極的に行い、家庭、市来の理解と協力を得ることができました。 ・市内で行われる諸会議や広報誌など、様々な機会を見つけ、一層の啓発活動を展開していきます。 	

6. 具体的な改善内容	改善時期	26年4月～27年3月
<ul style="list-style-type: none"> ・市のメッセージ展により多くの方が積極的に参加していただけるよう、活動の趣旨を多くの人に呼びかけていきます。 ・教職員の人権感覚を磨く取り組みを日常の実践の中で行い、実践として積み上げていきます。 		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	中島 玲子
<ul style="list-style-type: none"> ・美濃市の人権教育の実践は、県内でも注目されている。今後も、地域の人材を生かしながら、学校、地域、家庭が協力して人権教育を推進していきます。 		
今後の方向性	1. 継続 (1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)	